

会報



第44号
平成28年3月
発行
彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会

サラリーマン生活も残るところ五年となった平成二年。若いころから抱いていた希望に沿って、光風会所属洋画家の門下生として本格的に絵の勉強を始めました。始めたのは水彩画です。水彩絵具は中学生から親しんだなじみ深い画材です。誰でも手軽に勉強に入っていけますが、なかなか難しい画材です。浦和の先生の教室に通いながら、三期会に入会し油彩にも取り組みました。

やがて光風会展に出品するようになり日展にも応募を続けていきました。平成十年ついに日展第二部(洋画部門)に水彩風景画で初入選、夢の一つが実現しました。努力をすれば成果は後からついてくる。何歳になってもそれは変わらないことだと実感しました。その後、日展にも入選を重ね、平成十七年には水彩連盟展で文部科学大臣賞を受賞、大きな喜びでした。

私は蓮田市と上里町で五つの教室の指導をしています。教室は一か所の会員が十数名、六十歳代から八十歳半ばまで、男性三、女性七の割合でしようか。民生委員として九年間、様々な人生を垣間見てきましたが、

抱き続けた夢の実現へ

洋画家 坂田快三

絵の教室に通う人たちは皆さん前向きです。家では家業、親の介



冬の田

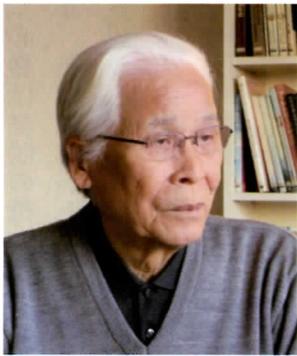
10号 不透明水彩

護や伴侶の世話をしながら、教室では楽しそうに会話をかわしています。絵手紙や陶芸、孫の子守りなど忙しいなかで時間を見つけて通ってきます。

私は教室では出来るだけ「口出し」しないようにしています。教えてもらって身につくものは少なく、自分で苦労して得た技術はとて大きいものです。したがって楽しく絵を描ける様に雰囲気大切にしています。そんななかで、ある日突然、生徒の絵が変わっていくのを感じる時があります。教え子の成長は何よりの喜びです。本人も「諦めずに続けてよかった」と思ったに違いありません。

絵は、手が動けば誰にでも手軽にできる勉強です。童心にかえて無心で始めてください。豊かな人生が訪れることでしょう。

私の先生は年齢九十余歳、さすがに体力は衰え介護をされる身となりましたが、創作意欲は衰えを知らず、日展参与として毎年大作を描き出品しています。絵を描く人の脳はいつまでも元気です。



プロフィール

坂田快三氏 略歴

- 昭和10年 広島県生まれ
- 平成2年 光風会洋画家の門下で本格的に絵画の勉強を始める
- 平成6年 3期会に所属する
- 平成10年 日展(2部)洋画部門で初入選
- 平成13年 蓮田市民生委員に就任、9年間勤める
- 平成16年 光風会 会友賞
- 平成17年 水彩連盟展 文部科学大臣賞 受賞
- 現在 日展会友、埼玉県展(2部)招待、蓮田市選挙管理者、絵画教室5グループで指導。蓮田市在住 80歳



一年を振り返って

創造し挑戦する勇気を！

県連協会長 中島武久

皆さん、こんにちは。新しい年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。



上げます。

時の流れは早いもので、新しい年度・平成二十八年度を迎えようとしておりますが、本年度はなにをしようか、なにに挑戦しようかと希望に胸を膨らませておることと思えます。

昨年暮れにNHKが宇宙飛行士油井亀美也さんが国際宇宙ステーション（ISS）で約五ヶ月間滞在中の模様を放映しましたが、これには深く感銘を受けました。狭い空間での少ないクルーとの共同生活、ましてや無重力状態での各種実験の連続など、体力・精神力の強さはいかばかりかと思うと畏敬の念さえ感じました。そして地上から送られてくる情報の正確さとこれに対応する頭脳の明晰さと機器の信頼性、人の叡知の素晴らしさに、ただ唯、驚くばかりでした。そして地上で待つ父親の子を思う表情には、涙せずにはお

れませんでした。

「必要は発明の母」といわれるとおり、あれこれがあればもっと便利にと思う心が、人間に創造力をかきたくて、その実現に向けて挑戦する勇気を与えてくれる。例えば、いつでもどこでも電話出来たらが、携帯電話であり、海外旅行では何本ものフィルムを持参しても、足りなかったが、今はその必要もない。自動車にはナビがあり、地図が不用となった。パソコンを開けば、居ながらにして世界中の情報を手にすることが出来る。

私は文系だが、理系の友に聞けば次の皆既日食は何時で、世界のどこが一番良く見えると言う。

ただ、この科学技術の進歩は私達の生活を便利にしてくれたが、一方世界にはまだまだ紛争が絶えない。何故か、分からない。しかし、放置しておくことは出来ない。

新しい年度に当たり、今日まで実現は不可能と自分に言い聞かせてきたことを、どうすれば出来るか、その策を具体的に創造し、たゆまなく挑戦する勇気を持ちたいと思う。創造 (creative)、挑戦 (challenge)、勇気 (courage)、CCの年にしたい。

社会貢献活動事例報告

赤い羽根街頭募金活動

浦和連協

恒例となつています浦和連協の赤い羽根街頭募金を今年度も十月一日JR浦和駅東口にて実施いたしました。あいにく天気予報も午後から雨で朝からいつ降り出してもおかしくない天候で先行きが危ぶまれましたが雨降りを覚悟して開始しました。

今回は二八期以降の皆様の協力により二十名の方が参加されました。募金活動は各期の協力なしでは不可能です。一つの期でも出来るでしょうが連協として各期の協力を得て実施することが肝要だと思います。その点校友の減少が続く中、各期の協力が得られることは誠に得難いことです。

十時から始めましたが天候がよくないこと、通勤時間も過ぎ人通りも多くなり、精一杯声を張り上げ呼びかけましたが昨年より減少するのはやむを得ないと覚悟をしました。一時間を過ぎたころ浦和駅西口で募金活動を行っていた団体が天候もよく

ないので早めに上がるということ、急遽グループが西口に回りました。その結果、昨年には及ばないものの、約二万五千円集めることができました。これは参加した方の熱心な呼びかけによるものと感謝します。赤い羽根募金活動は街頭募金だけではなく各期にて校友会員に呼びかけて行っており十一月末日までに浦和連協として取りまとめ共同募金会に寄付しております。

赤い羽根共同募金は今後も浦和連協の会員数が減少しても浦和連協が続く限り継続していきたいと考えております。



農林公園の「夏祭り」

昔遊びボランティア

熊谷連協

熊谷連協では、深谷市にある埼玉県農林公園「夏祭り」にボランティアで昔遊びを担当し、平成17年から今年で11回目となりました。今回は8月1日から2日に掛けて猛暑(気温37度、湿度64%)の屋外で、昔懐かしい缶ポックリ・シャボン玉・竹馬・スイカ割り、室内では輪投げ・あやとり・折り紙・紙ヒコーキ・おはじきの遊び体験を延べ158名でお手伝い。876名もの多くの皆様に楽しんで頂きました。



一番の人気はシャボン玉遊びでした。シャボン玉液を自分で造り20リットのポリタンク2個を用意しました。小さく数多く出来るシャボン玉に思わず『きれいく』風の向き、光の加減により様々なシャボン玉が

2年制4期 校友会 塚田東司



次から次へと生まれ飛んでいきます。『でっけえ〜』『すごい』という声にすっかり気を良くしたメンバー達。暑さも何のその、家庭では滅多に出来ない大きな輪や細長い輪など、私達も久々に童心に戻り純粋に楽しむ事が出来た2日間でした。

清掃ボランティア活動

川越連協

彩の国いきがい大学川越学園32期は平成20年に卒業後、校友会の理念に基づき何か社会貢献活動をしたく、検討しました。最終的に川越市役所環境政策課と相談したところ、川越には「かわごえ環境ネット」が発足しておりその中に市内観光ルートの清掃ボランティアが活動していると紹介され、この団体に登録して事になりました。用具(反射板付チョッキとトング)は20人分市役所から貸与して貰い初めました。以来7年間、年六回実施しております。継続できているのは当初から難しい事は止めて、継続出来る事に絞った事だと考えます。清掃ルートは川越駅から中院→東照宮→喜多院→川越城本丸→市役所までの観光ルートです。メンバーは3グループに分けて15名前後の構成です。活動時間は2時間程度です。この効果を考えますと、観光ルートの清掃で結構なごみが収集できますが、何より校友会活動とし



て集まり、会話し、適度なウォーキングをし、終了後に各別に食事して交流を深められる事でないかと考えます。
毎年市役所の報告は32期の会報にボランティア活動を載せて届けています。写真はその様子です。
(川連協32期会長 織田洸一郎)

「相手の目線に立って」

飽きのこない演出と

構成を工夫する

鷺宮連協

簡単リズム体操は8年前の在学当時、班の中から「勉強も大切だが、身体を動かさないと疲れるね」と発したさりげない会話と、入学前から健康体操を指導実践していた友達のリードに意気投合して誕生した。

リズム体操は11名で活動しているが、最近練習場所の住民も参加するようになり、毎週木曜日リズムミカルな曲に合わせて2時間程度汗を流し、午後はそれぞれお花、琴や吹矢などの趣味の時間にあて有意義に活動している。

ボランティア活動は会員から自然発生的に施設を訪問してみようとの声から実施したことが動機で、毎年31期事業の施設訪問に参加し実績を重ねてきた。

訪問先は、県北の小学校、高齢者施設や障害者福祉施設などと多様な社会福祉協議会などからのオフアもある。

活動はライフ&ワークのバランス

を考慮し、あえてエリアを広げたり、こちらから積極的に施設側などに慰問をアプローチするようなシステムは取っていないが、出演依頼などは過去からの活動実績からの口コミで相手から連絡がある。

訪問先での内容はターゲットのあった音楽を用意し、誰でも簡単に有酸素運動をリズムミカルに出来るようにしている。例えば高齢者には昔を思い出すような懐かしい曲、子供には今話題の音楽などで相手に飽きのこない演出と構成に配慮し、自己満足にならないように注意し「相手の目線に立って…」をモットーにし行動している。また、施設側の職員に対し過度な負担や入居者に対するケアが増えるような

ことのないように注意することも大切な要素です。

鷺宮連協

31期

校友会



「落語と音楽の夕べ」の開催

蕨連協

蕨連協は本年度、校友会活動の活性化を計るため、従来の事業に加え、参加者と出演者が一体となり楽しめる特別イベントを企画・立案・実施することとしました。

当連協では、このイベントを社会貢献活動の一環として位置づけ、参加する人たちを校友会会員に限定せず、校友会員の家族・友人及び近隣の人たち等多数の人たちに声をかけ、参加者を募りました。

その結果、イベントに参加した人数が校友会会員及び一般参加者を含め、四百七十名という多くの方々に参加していた

第一歩では、

三遊亭歌之介 門下の若手落語家三遊亭歌実さん(名前から分かるよう



に、昔巨人の定岡、今ガンバ大阪の遠藤の出身校である鹿児島実業出身)が「初天神」と「金明竹」の二話を若々しいアクシオンで熱演し観客の心をつかみました。

第二部は、小沼明子・さゆりさんの姉妹と間違えるかのような親子による器楽演奏及び独唱による演奏会でした。

「千の風になつて」等の独唱に圧倒され、観客とのコラボレーションの



「なだそうそう」及びコミカルな体操が入った「山のごちそう」では出演者・観客がまさに一体となり楽しい時間を過ごせました。

演奏会の最後に、蕨学園の愛唱歌「四季の歌」と「今日の日はさようなら」を全員で合唱し閉幕となりました。

これからは、本年の経験を生かし、より一層皆様に喜ばれるイベントにしていく予定です。

(24期 高橋 記)

ボランティア参加の窓を 開けよう

東松山学園平成27年度
地域ジュニア交流会
実行委員長 伊深 力

いきがい大学東松山学園と、地元
の東松山市立青鳥小学校児童との交
流会について報告します。

まず、夏休み第一週に実施してい
ます、地域ジュニア交流会は、今年
から体育館での軽スポーツ（カロー
リングおよびドッジビー）と、従来
からの教室でのイベント（輪ゴム鉄
砲づくり）を七月二十三日に、翌
二十四日に折り紙飛行機づくりと体
育館での飛翔大会を開催しました。
体育館利用の企画は、今回が初めて
でしたが、学校側から好評を得まし
た。

小学校行事の「虹の架け橋集会」
は、昨年まで学校関係者のみで、実
施されていましたが、今回からいき
がい大学への呼びかけもあり、地域
ジュニア交流会役員4名が参加しま
した。

この行事は、戦後の昭和時代の子
供たちの遊びを、後世に伝承する狙
いもあり、十月二十一日に実施され
ました。遊びの内容は、あやとり・べ
おはじき・折り紙・缶ぼっくり・ペ
ーゴマなどの十二種目を、児童30
名程度のグループに父母や私たちボ
ランティアと指導教師が3〜5名配
置、約2時間の昔遊びを楽しみまし
た。後日、児童直筆の感謝状が届く
など、清々しい印象として残り、明
るい学校づくりへの努力が感じられ
ました。



虹の架け橋集会風景

地域社会への貢献活動

春日部連協

私達がこの活動を始めて十五年に
なります。きっかけは近くに心身障害
者自立支援作業所が有り訪問したこ
とでした。

入所者の方々が職員の指導の手ほ
ろを受け作品制作に懸命な姿が印
象的でした。目に留まったものは完成
品の山でした。職員の方に訊きますと
販売ルートがなかなかみつからない
事、作品が世の中に出たいと私に訴え
ているように感じました。

自宅を「スペース悠悠」として企画
展などイベントを開催してました
のでテストとして購入しご来店のお
客様に紹介及び販売し好評でした。

売上金は、すべてメンバーのお給料
として活用されている事が私達の活
動に弾みをつけました。

チャリティーコンサートを年一回
自宅にて開催、当初十四人でスタート、
コンサート内容により広い会場へと
変更し、回を重ねる事十二回、延二千
七百五十人の参加を頂きました。コン
サートの特徴は、コンサート収益金よ

り運営費を除き余剰金は自主作品を
一括購入し入場者の皆様にお礼の品
として差し上げています。

第四回より、春日部市長にもご挨拶
も頂いています。寄付金贈呈・自主作
品の支払いも会場にて、各福祉施設長
に直接手渡しを行っています。本年も
昨年と同様コンサートを計画してい
ます。皆様ご協力宜しくお願い致しま
す。

自主作品受託及び紹介

ひまわり園・あおぞら・ゆりのき支
援(春日部市運営)ともに(社・法人・
春日部市)・はーとふる(社法人・野田
市)・NGOカンボジア子供支援

寄付金贈呈先

子供の町、春日部市ふじ福祉基金

(二十期 高久 敏子)



盛んになってきた慰問活動

課題はコラボ相手

入間連協

学園連協の中で最も若い入間連協も、今年度で7期となりました。

それに伴い、2期「和気あいあい」や5期「南京玉すだれ」、7期「アロハレインボークラブ」など施設慰問などのボランティア活動を積極的に行う会員が育ってきました。

その中から、6期の「かつぼれ」よさこいソーラン」クラブの活動を紹介します。

本クラブは、学園祭に参加した班活動から発展したクラブで、11名の会員が、月2〜3回公民館で練習しています。練習成果の発表は、入間連協の文化祭、入間万燈まつりや地区公民館の文化祭に参加する他、ボランティア活動として、ケアセンター、病院、敬老会等で演技しています。平成27年は、校友会以外への出演は8回あり、この内5回がボランティア活動でした。入間市社会福祉協議会の演芸ボランティアセンターに登録し、名簿の公開による広報や訪問先の紹介を受け、また共同で活

動する団体の紹介などサポートの下で活動しています。

活動期間が2年と短いため、演目数の関係で単独では番組を作りにくく、他演目と共演する必要がありませんが、日程が合わないなど、適当なコラボ相手を見つけないのに苦慮しており、校友会のクラブなどと連携して、活動の幅を拡げていきたいとのことです。

入間連協では、施設慰問以外にも、2月に実施する学習会で、認知症サポーター養成講座を取り上げるなど、会員の社会貢献活動を積極化する活動を行っています。

(6期校友会会長 足立弘)

←敬老会での演技 (かつぼれ)



ケアセンター → そよ風慰問 (よさこいソーラン)

平成27年度の活動報告

伊奈連協

伊奈学園校友会は二年制24期迄と一年制専科6期迄の一、〇三五名の卒業生が在籍している。

伊奈学園独自の活動として、

- ①グラウンドゴルフ大会②ボランティア活動発表会③親睦社交ダンスの集い④合同研修会の四大大行事を計画・実施した。

①は9月4日(金)・予備日9月18日(金)を予定したが、生憎の雨で何れも中止。本大会は県連協への代表選手の選抜を兼ねるので、秋霖の時期の開催予定もやむを得ない。晴天を祈るのみの状態だ。

②は10月30日(金)第6回目を県活小ホールで開催。

15団体、116名の参加者が日頃の活動の一端を披露。本団体は、イナ・ヴ



オイスという伊奈連協校友会独自の組織で、介護施設、保育・幼稚園、地域等の要請に対応。幅広い活動は社会貢献活動として評価を得ている。昨年度から県連協の社会活動のあり方を検討するモデルケースでもある。

③は11月16日(月)岩槻東口ワッツ西館ビル3Fで開催。参加者79名。他校からの応援出演があり、成功裡に終始した。

④は11月20日(金)県活小ホールで開催。“アロハの風と共に”と題し、演奏者と校友会員、約300名が一体となってハワイアン音楽を楽しんだ。(公財)いきいき埼玉が主催する

いきいきフェスティバルは県活で11月14日・15日の2日間開催。伊奈から3団体に参加し盛会の一端を担った。来場者3万5千人超。

更に、県連協が主催する社交ダンスの集い(10月2日32名参加)、グラウンドゴルフ交歓大会(10月30日23名参加)等にも積極的に参加した。今後開催の芸能祭(3月5日)には2団体参加予定。担当部署となった広報ではより良い広報誌を目指している。

(20期校友会 恩田宏三)

公益財団法人
いきいき埼玉

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろボランティア活動等を通じて地域社会の活性化のため、格別のご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、彩の国いきがい大学は、昭和五十一年の開設以来、社会のニーズに合わせ、進化、発展を繰り返してまいりました。そして、今年度、

います。

しかしながら、安心・安全な学習環境を確保していくとともに、県西部での学習ニーズの高まりと今後の地域活動の広がりを考え、このような形に変えていくことを選びました。そしてこの機会に、より広い地域でいきがい大学を受講していただけるような態勢づくりを目指すことと

るOBの皆様が、再度いきがい大学にご入学いただける道も、新たに用意させていただきました。これが、今まで以上の活躍を展開していただく契機になれば幸いです。

高齢社会となった現在、地域社会の担い手として活躍する人材として、若い人たちだけではなく、心身の健康を維持しながら、これまでに培ってきた知識や技能、経験を活かし活躍していく高齢者にも期待が高まっています。

今後とも



会報四十四号の発刊に寄せて

公益財団法人 いきいき埼玉

理事長 茂木 皇 治

たしました。

昭和六十年以来の歴史を持つ二年制学園の最後の卒業生を送り出し、併せて、三十一年間県西部の学習の拠点として多くの方に愛されてきた東松山学園を閉じることとなりました。二年制学園を卒業された校友会会員の皆様、特に東松山学園に在籍された皆様には、この変化にひとしおの寂しさを覚えておられることと思

いしがい大学は、学習を終えてからの皆様の地域での活躍を期待して設けられた学園です。ぜひいきがい大学で学んだ成果を、お仲間とともに地域での活動に昇華させていたいただきたいと存じます。

また、地域で活動するためには、今一層の学びが必要と感じておられ

会員の皆様におかれましては、会員相互の交流を深めていただきます

とともに、そのネットワークを活かして、地域社会の様々な活動に積極的に取組まれるよう大いに期待しております。

結びに、貴協議会の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

◇平成27年度いきいき埼玉の主催事業実績◇

- ① 彩の国プラチナフェスティバル (高齢者創作展)
平成27年9月4日 (金)から 7日(月)
埼玉会館
部門：日本画 洋画 工芸 書 写真 文芸 応募出品 687点 来場者 2,453人
- ② 彩の国いきいきフェスティバル
平成27年11月14日(土)・15日(日)
埼玉県県民活動総合センター
県連協から6連協(熊谷、鷲宮、蕨、東松山、伊奈、春日部)が参加 来場者 約35,000人
- ③ いしがい大学第2回公開学習
平成27年12月15日(火)
大宮ソニックシティ 大ホール
第1部 アトラクション ハワイアンバンド 「ナレオ-メブア」による演奏
第2部 講演「世界最高峰を目指すための超健康法」 三浦 雄一郎氏 (プロスキーヤー)
入場者 2,086人 (在校生1,279人、一般807名)

県連協事業報告

いきがい大学第1回公開学習いきいき活動事例発表2題

平成27・07・14(火)

いきがい南京玉すだれ

春日部連協

平成27年度、第1回公開学習の事例発表に、会を立ち上げて6年の私たちが春日部学園としてはじめて参加して、日々の活動を発表することができました。

南京玉すだれは、すだれが操れるだけでなく、「それ、それ、それ、それ、それ」と独特の口上に鉦・太鼓が入ると華やかさが増します。橋や富士山ができたときの拍手や笑顔を見ることが喜びです。

活動の場は高齢者福祉施設や公民館まつり、藤まつり、そして芸能祭には3回続けて出場しました。施設では1時間を南京玉すだれやどじょう掬い、手品、二年制一期のオカリナと歌、時に民話や手遊びをして楽しく過ごします。南京玉すだれをじかに見た方には大変喜ばれます。玉すだれを持って頂いたり、傍らで一緒に歌をうたいます。

今回大きな舞台に立てたのは、メ

ンバー全員の力強い総意があったからです。

月2回の練習をほぼ毎週行い、真剣に練習と話し合いを重ねて臨みました。ボランティア活動も本番を意識して行い、前向きに当日を迎えました。指導者や映像で参加してくれた方々から「最初はどうかと思っただけで、潜在していた底力がチームワークを生んだと思います。今は「ヤッター」という気持ちです。



これからも精進して、春日部の名所、名物を織り込んだ「春日部よいとこ」で笑顔に出会いたいと思います。(坂牧 記)

伊奈学安来節同好会

伊奈連協

発表は総合司会の『ピッチピッチのおばあーちゃんとバリバリのおじいちゃん』の案内で始まった。Mさ踊りです』の案内で始まった。Mさんのいつもの名調子で同好会誕生から始まり、私たちの福祉活動状況の紹介、そして活動目標へと事例発表が進むと、会場からはどよめき、うなずき、みたいな反応が段々と大きくなっていった様に感じました。スライドの「これからの私たち」の事例発表で『先ず自分達がいつまでも元気でいる事が社会福祉活動そのものであり究極のボランティア活動です』の場面が一番の共感を貰ったように感じました。「安来節・泥鯱掬い踊りの練習が自分たちの元気のもと」と会場の皆さんにお話がしたくて事例発表に臨んだ理由の一つです。

そして私たちにとつての圧巻はやっぱり皆さんからの掛け声、手拍子を頂いて会場全体が一体になっての



「南中ソーラン」ではなかったでしょう。踊り終わった後の皆なの『ヤッター』『まんぞくー』の笑顔がとっても清々しく晴々しく感じました。これでまた一つ「素晴らしい思い出」を加える事が出来ました。今日の笑顔は訪問活動先でおばあーちゃん、おじいーちゃんとのふれあいから頂いた笑顔で私たちの笑顔の大もとです。これからも様々な施設、機会でのいろいろな笑顔を見て活動を続けていきたいと思えます。

このようなビッグチャンスを頂いた彩の国いきいき財団を初め多くの皆様からご支援、ご協力を賜りました。こころから感謝申し上げます。本当に有難うございました。

(文 安来節 世話人大澤)

社交ダンスの集い

10月2日、上尾運動公園体育館で、7学園とわらびユニークダンス友の会358名の参加で開催されました。今年度は、鷺宮・熊谷・蕨の3学園が担当幹事校となり、6月末からの準備に当りました。

当日は9時からの会場準備も各学園の協力で手際よく進み午前中はフォーメーション(団体演技)のリハーサルで各学園とも念入りにチェックしていました。

12時半からの開会式では、中島県

連協会長と向佐いきいき埼玉理事事からご挨拶を頂き盛大にスタートしました。恒例のフリーダンスでは、他学園との出会いを楽しみ交流を深めながら楽しく踊りました。ダンスの衣装を着こなした男女の背筋がピンと



学園旗を前に開会式



旗手を先頭に入場行進

伸びて軽やかなステップ。とてもシニアとは思えない、潑刺とした姿でした。最も緊張するのは、各学園のフォーメーション(団体

演技)発表。いかに隊形を崩さず優美に踊るか、半年に及ぶ練習の成果の見せ場です。各学園とも1曲ずつ踊り、その後ミキシングを挟んでもう1曲ずつ踊りました。ラストダンスでは、しんみり踊り、最後は「蛍の光」で締めくくりました。

閉会式では県連協の東山副会長の閉会の辞で、次年度の再開を誓い、大会を終了しました。長期間にわたり準備にあたった3学園の実行委員、スタッフの皆様にご礼を申し上げます。

鷺連協 村谷記



フォーメーションの演技

平成27年度県連協主催 第17回グラウンド・ゴルフ交歓大会

秋空晴天の下、10月30日(金)

宮代町はらっパーク宮代(金原運動公園)において、県連協第17回グラウンド・ゴルフ交歓大会が開催され、各連協から選抜された209名が参加。

県連協会長・中島武久氏の挨拶に始まり、前回大会優勝者の伊奈学園・石川修治、準優勝者の齋藤喜静両氏の力強い選手宣誓の後、熱戦が繰り広げられました。

選手の皆さんは好天の中、汗ばむほどのプレーに集中し、天然芝の微妙な感触を確かめながらのゲームに終始していました。

昼食休憩を途中に挟んでの前半16ホール、後半16ホールの32ホールストロークプレーで行われ、東松山学園の中村彰氏が「65」というハイスコアで優勝されました。ホール・イン・ワンが4回記録されたことが好成績に繋がりました。準優勝は入間学園の佐々木正子氏でスコアは70。3位〜10位までの方に入賞者として賞品が渡され、さらにホール・イン・ワン賞が29名に授与され、ラ



プレーと表彰の様



ツキー賞も抽選で多くの方々へ渡されました。

終日好天に恵まれ、各連協からの精鋭揃いに好スコアが続出。「安全第一に」そして「楽しんでもらいたい」という会長挨拶のように誰一人ケガもなく、無事大会を終えました。

今回は鷺宮学園、春日部学園が幹事校として運営を行いました。御苦労様でした。

(春連協・広報部 岡本 記)

◇	成	績	上	位	者	◇
優	勝	中	村	彰	東	松
準	優	勝	佐	々	木	正
3	位	清	水	誠	四	郎
4	位	武	井	康	正	熊
5	位	笠	原	政	子	熊
6	位	大	槻	哲	男	熊
7	位	星	崎	善	雄	春
8	位	平	川	勝	夫	熊
9	位	青	木	國	夫	鷺
10	位	齊	藤	信	義	鷺

第四回芸能祭

県連協主催の「第四回芸能祭」が三月五日（土）、比企郡嵐山町「国立女性教育会館講堂」で、盛大に開催されました。



今年度

第四回の担当は、入間連協、東松山連協の二校共同幹事で、企画運営を担当しました。

又、今年は、

校友会会員だけでなく、友人、家族など沢山一般の方々にも楽しんでいただけるよう、従来の金曜日から「土曜日開催」に変更しました。六〇〇人収容の観客席は、予想を超える入りで大いに賑い会場は盛況を呈しました。

定刻一〇時より開会式が行われました。松連協二〇期校友会の倉林会長のピアノ伴奏のもと、全員で「四季の歌」を合唱、続き、主催者側の実行委員長石塚松連協会長から「開会の言葉」、大会会長の中島県連協会

長挨拶があり、来賓を代表して東松山市森田市長及びいきいき埼玉の斎藤課長のお二人より「ご挨拶」を戴きました。

いよいよ公演開始です。

主催者挨拶



来賓市長挨拶

東松山連協四〇名による迫力いっぱい「オカリナ演奏」で、幕が開かれました。蕨・浦和など連協の演技が続き驚宮連協の「簡単リズム体操」まで、七演目で午前の部の演技は終わりました。食事休憩の前に女性教挨拶育会館櫻田課長の「男女共同参画」の講話を頂きました。

午後の部は、東松山連協の豪快な

「和太鼓」で始まり、社交ダンス・南京玉すだれ・ハーモニカ演奏等さらには蕨連協の昭和の時代背景をバックにした「懐かしの昭和の唄メドレー」・熊谷連協の歌舞伎「勸進帳」を楽しみ、トリアは入間連協の優雅な「尺八と日本舞踊」で二十一演技すべてを余韻残しつつ幕を閉じました。閉会式は、副実行委員長の足立入間連協副会長の「閉会の言葉」に続き、ピアノ伴奏による「今日の日はさようなら」を参加者全員が気持ち一つにした大合唱を最後に、沢山の思い出を胸に、楽しかった一日を終えました。

(東松山連協 実行委員会)



編集後記

平成27年度県連協会報44号は県連協会長、いきいき埼玉理事長を始め各連協の担当の方々のご協力により発行の運びとなりました。

皆様に厚く御礼申し上げます。各学園とも優れたリーダーのもと一致協力して社会貢献活動に邁進しておられる様子を投稿していただき充実した誌面となりました。行事報告も忙しいなかでそれぞれに楽しい文章と写真で構成していただきました。

時が過ぎ時代が変わり人の気持ちも移りゆくなかで、変わらぬ情熱を持って県連協、会報を守り育てていきたいものです。

伊奈連協 広報部

作成幹事校

いきがい大学伊奈学園

校友会連絡協議会

